



品性は3つの力としてあらわれます。それらが互いに補い合って養われることで、私たちには幸福がもたらされるのです。

物事に取り組む際には、自分の考えを聞いてもらったり、人に意見を尋ねたりする「つながる力」を働かせたり、問題が生じてもめげずに向き合う「もちこたえる力」を働かせることで、よりよいものを生み出すことにつながります。

いずれかの力を十分に発揮するには、ほかの力も働かせることが、物事の達成の糸口になります。

モラロジーは、道徳的な心づかいと行いを積み重ねていくことで、品性が向上し、それに応じて人間の幸福が実現するという因果関係を明らかにしています。

品性の向上に日々取り組んでいる人とは、必ずしも物事が自分の思いどおりにならない局面にもじっと踏みとどまり、他者の支えや励ましに感謝の気持ちを感じ、物事の成就に向けてあきらめず努力する人です。このような生き方は決して容易なことではありませんが、長く続けることで着実に品性が身に付き、その人柄が自他の幸福をもたらすのです。

そうした意味では、品性向上の道筋は、生涯を通じてなされる「長い旅路」だといえるでしょう。

今月の範囲

- 第一部 基礎編
- 第二章 幸福をもたらす品性
- 三、品性——善を生む根本

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は、品性がもたらす3つの力について図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成=「れいろう」編集部

# 品性と3つの力

## ——つくる・つながる・もちこたえる

教育研究室研究員 江島頭一

「品性のある人」とは、どのような人でしょうか。また、品性を身に付けるにはどのような生き方が大切なのでしょう。今回は、幸福の実現の根本となる「品性」について考えてみましょう。

モラロジーにおける品性とは、道徳の実行の積み重ねによって身に付けた人柄を指します。具体的に品性は、次の3つの力としてあらわれます。

第一は「つくる力」、すなわち新たなものを生み出す創造力です。自らの能力を活かし、課題を解決する意思や知恵を生み、人生を開拓する力です。

第二は「つながる力」、すなわち他者と共生する力です。人と親密に交わり、人と心を通わせ、さらに人々と協力して集団の機能を発揮させる力です。

第三は「もちこたえる力」、すなわち困難や危機に対処する力です。人生の途上で遭遇する問題や苦難に際して粘り強く対応し、前進していく力です。

この3つの力は、それぞれ独立して養われるのではなく、相互に関連して培われます。例えば【図7】の赤い矢印のように、「つくる力」を発揮して何か新しい